

## 令和6年度

## 外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

## 【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

## 1 事業の具体的内容について

## (1) 自治体における取組

## ① 協議会について

## 1. 構成員 18名

県医師会1名（内科医）、がん診療連携拠点病院1名（がん専門医）、大学教授2名、外部講師代表2名（呼吸器内科医、がん経験者）、県健康福祉部保健医療課1名、養護教諭2名、各地区教育事務所指導主事5名、県教育委員会体育健康課事務局4名

## 2. 開催時期、検討内容

## ■ 第1回推進協議会 【令和6年10月4日（金）岐阜県庁】

○令和6年度のがん教育推進の重点について

- ・がん教育についての理解促進
- ・外部講師派遣事業の充実

○外部講師と共に実施するがん教育推進上の課題とその解決に向けて

- ・県全体及び各行政地区の推進状況交流

## ■ 第2回推進協議会 【令和7年1月17日（金）岐阜県庁】

○令和6年度のがん教育推進の重点について（成果と課題）

- ・外部講師を活用したがん教育実施状況報告
- ・事業実施前後のアンケート結果並びに報告書を踏まえた意見交流
- ・令和6年度の主な実践（指導案やプレゼン資料等）を県のホームページに掲載した。

○令和7年度がん教育総合支援事業について

- ・希望制の外部講師派遣を継続。実施形態も、授業や講演会、研修会など柔軟に対応した。
- ・外部講師の派遣校数を、30校程度（令和6年度19校）に増やす。地区ごとに小学校・中学校・高等学校それぞれでがん教育を実施できるよう配慮した。
- ・小・中及び県立学校の学校保健講習会における外部講師（薬剤師）の講義で、がん教育についても扱う。
- ・がん教育授業や講演会、研修会の情報を教職員だけでなく、外部講師候補者（医療関係者、がん患者会等）にも広く周知した。

## ② 教育委員会としての取組

## ■ 令和6年度 学校保健講習会におけるがん教育研修

- ・6行政地区全てに講師として前年度推進指定校でご指導いただいたがん専門医を派遣し、養護教諭を対象にがん教育研修を実施。

地区	期日	講師氏名・所属
岐阜	6月21日（金）	岐阜大学医学部附属病院 小関 道夫 医師
西濃	6月24日（月）	大垣在宅クリニック 進藤 丈 医師
東濃	6月26日（水）	県立多治見病院 伊藤 浩明 医師
美濃	6月28日（金）	中部国際医療センター 樋田 豊明 医師
可茂	7月1日（月）	
飛騨	7月4日（木）	高山赤十字病院 浮田 雅人 医師

■令和6年度 がん教育外部講師派遣事業

・希望する18学校と1団体に外部講師を派遣し、授業・講演会の普及・啓発に取り組んだ。

年度	実施数	講師	岐 阜	西 濃	中 濃		東 濃	飛 騨
					美 濃	可 茂		
H30	2	医師 2					陶都中	東山中
R1	2	医師 2	各務原西高	大垣西高				
R2	2	医師 2			白鳥中	加茂高		
R3	7	医師 7	真正中	不破中 垂井北中	郡上高	美濃加茂西中	恵那高	斐太高
R4	5	医師 5 がん経験者 1	境川中	揖斐高		中部中	瑞浪中	吉城高
R5	5	医師 5 がん経験者 2	羽島北高	日新中	昭和中		多治見高	竹原中
R6	19	医師 12 看護師 4 がん経験者 6 管理栄養士 1	外山小 小鶴沼中 山県高	城南中 池田中 大垣南高 大垣商業高 大垣工業高(定)		川辺中 八百津中 東濃実業高	肥田小 泉中 多治見市養教 恵那北中	山王小 清見中 下呂中 萩原北中

・実施校一覧を各市町村教育委員会及び学校、医師会、がん患者団体等に案内したことで、毎回多数の参加があった。

公開授業・講演会后に研修会を行った学校では、外部講師と授業者、他校の教職員、市町村教育委員会、県教育委員会等が参加し、健康教育の一環としてのがん教育推進について意見交流を行った。

■令和6年度 がん教育外部講師（医師）研修会

・外部講師の指導力向上と県内のがん教育の平準化を図ることを目的に、協議会の委員である医師2名が発起人となり、2月25日（火）にオンラインで開催した。県内の医師13名と県教育委員会が参加し、各校で実施するがん教育授業・講演会の内容やプレゼン等について意見交流を行った。

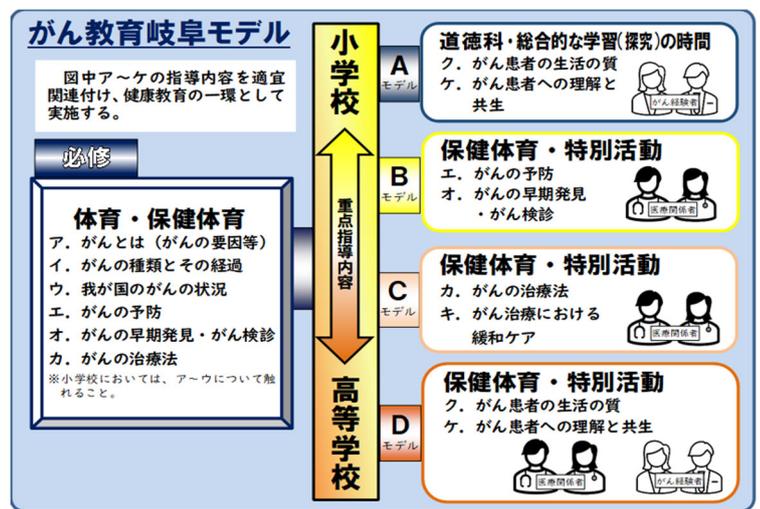
③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・県健康福祉部保健医療課に「学校におけるがん教育推進協議会」の委員に就任していただき、岐阜県がん対策の主管課として協議会で助言をいただいた。
- ・保健医療課主催の「岐阜県がん対策推進会議」に参加し、第IV次岐阜県がん対策推進計画における「学校におけるがん教育」について関係機関と共通理解を図った。
- ・保健医療課から、がん診療連携拠点病院及び患者団体に対する外部講師登録を働きかけていただいた。
- ・市町村教育委員会からのがん教育講師派遣依頼に対して、受付窓口を体育健康課が担い、県医師会との調整を体育健康課、がん診療連携拠点病院及び患者団体との調整を保健医療課が行うなど、体育健康課と保健医療課で連携して対応する体制を整備した。

(2) 外部講師を活用したがん教育の授業

■内容

- ・前年度の約4倍にあたる19団体（小学校3、中学校10、高等学校5、養護教諭部会1）で外部講師を派遣したがん教育を実施した。がん教育岐阜モデルをベースに、各校の実態やニーズに合わせた授業や講演会が実施された。
- ・実践校の資料（外部講師との打合せシート、学習指導案、指導資料等）の一部をHPに掲載し、より多くの学校で外部講師を活用したがん教育を推進した。



■外部講師を活用したがん教育授業・講演会

○令和6年12月20日（金）土岐市立肥田小学校

がん教育授業（体育科・保健領域）

【外部講師】村上 亜矢 看護師長（東濃厚生病院）

【ねらい】 ・「がん」について正しく理解することができるようにする。

・健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

【内 容】 ・がんの要因と現状

・がん患者への理解と共生

・がん予防のための生活習慣と、早期発見のための検診の重要性

※県事業として、今年度初めて小学校3校において外部講師を活用したがん教育を実践した中の1つ。講師もこれまで実績のなかった看護師ということもあり、学校と講師との事前打合せが丁寧に行われた。過去の中学校における実践を基に、学習指導要領に「触れる」と記載のある小学校での授業内容をどうしていくか模索しながらの実践となったが、子ども達は、がんを通して健康と命の大切さについて主体的に考えることができていた。



○令和6年11月27日（水）海津市立城南中学校

がん教育授業（学級活動）兼指導者研修会

【外部講師】進藤 丈 医師（大垣在宅クリニック、岐阜県がん教育推進協議会委員）、彦田 加奈子（がん経験者）

【ねらい】 ・健康や命の大切さについて、主体的に考えることができる。

【内 容】 ・保健体育教諭及び外部講師（医師）による事前学習の復習

・がん経験者の体験や願いを聞く

・これからをどう生きていくか意見交流

※海津市は、昨年度の推進指定校の実践を機にがん教育に力を入れ始め、2年目となった今年度は、上記実践以外にも市予算で市内の他2中学校でも同じ外部講師を招いたがん教育を実践した。指導者研修会には、市内外の学校職員25名と市教育委員会2名、保健医療課5名、県教育委員会3名等も参加し、熱心な交流が行われた。海津市の取組は、令和7年2月4日（火）に朝日新聞朝刊でも紹介された。



○令和6年11月29日（金）岐阜県立大垣商業高等学校

がん教育講演会（保健体育科・科目保健）

【外部講師】丹藤 俊彦 岐阜県健康福祉部長（がん闘病者、医師、元厚生労働省職員）

【ねらい】 ・早期発見の重要性を理解する。

・がん治療の大変さを理解する。

・自分ががんになった時の注意する点とがん患者との接し方について考える。

【内 容】 ・保健体育教諭による事前学習の復習

・養護教諭による子宮頸がんについての話

・講話及び質疑応答

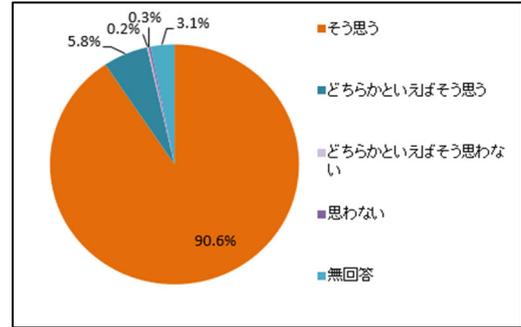
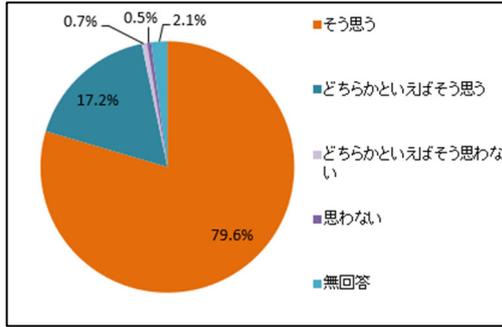
※がん患者兼医師兼がん対策を推進する行政職員という多様な立場である外部講師による講話は、本時のねらいを達成するに充分であった。県健康福祉部との連携もより密になった。



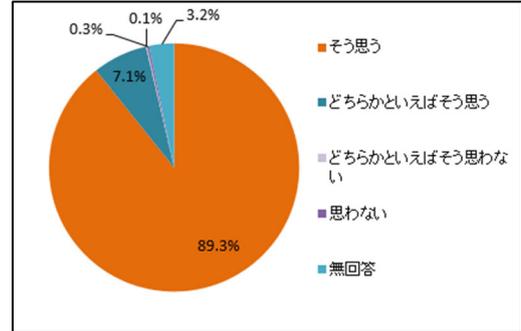
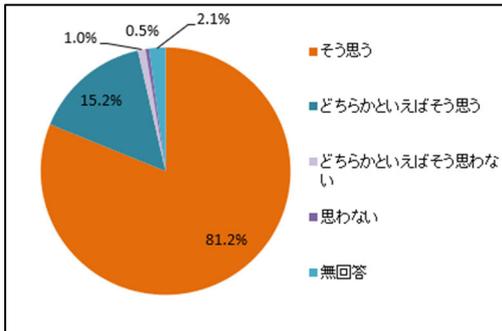
## 2 事業の達成度について

(1) がん教育実践校 意識調査（一部抜粋） 対象：小学校 64 人、中学校 884 人、高等学校 561 人）  
 実践校の児童生徒に対する事業前と事業後の意識の変容は以下のとおりである。

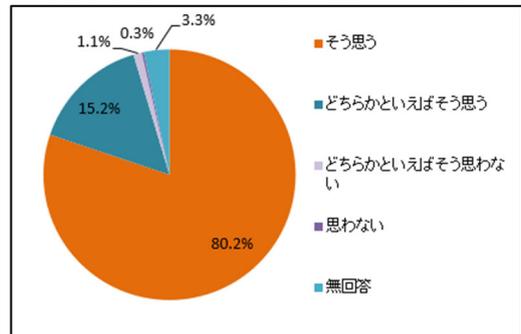
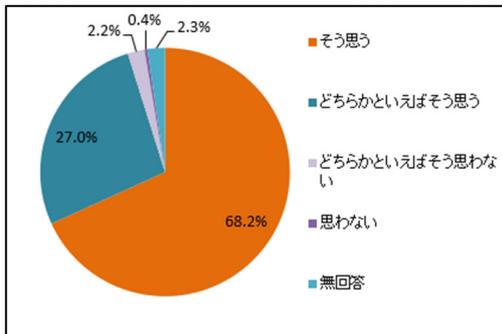
■ 質問：がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ



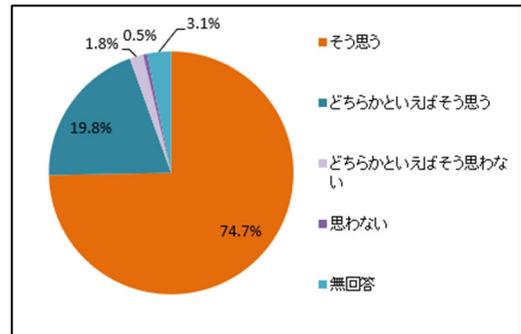
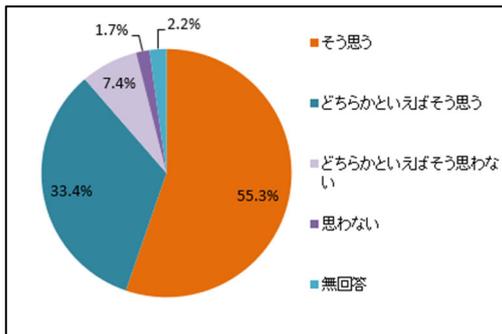
■ 質問：がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ



■ 質問：日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う



■ 質問：がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う



## (2) 評価

○各学校の実態やニーズに合わせて実施したことで、本事業の活用率が大きく向上した。学習内容にも必然性が生まれ、授業・講演会前から受け身ではなく主体的に取り組む学校が増えた。

○上記アンケート結果から、児童生徒への教育効果が大変高かったことを確認することができた。

○県ホームページを閲覧した医師や市町村関係者等からの問い合わせが増えたり、自地区の学校におけるがん教育講演会・授業を悉皆研修に変更する市町村教育委員会が出たりするなど、がん教育への関心の高まりを感じることができた。

### 3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

- ・授業や講演会の内容を、より児童生徒の実態や学校のニーズに合ったものにする。  
実施形態が多様になったことで、特に講演会において、学校側の思いが十分講師に伝わっておらず、やや求めていた内容とずれてしまうことが見受けられた。  
→外部講師の研修会・交流会を行う。  
→来年度は、学校がより主体となって外部講師との事前打合せを丁寧に行うよう指導していく。
- ・本事業への参画者をさらに増やす。  
今年度も、各校で実施されたがん教育を多くの教職員や市町村関係者、医師、がん経験者、保護者等に参観していただいた。参観された皆さんが口をそろえて「実際に授業や講演会を観たことで具体的なイメージができた」と言われた。  
→来年度は、これまで教職員向けにしてきた各校で行われるがん教育への参加案内を、医師会や保健医療課にもお力添えをいただいて、外部講師等にも広げる。